

いばらき建設技術研究会 橋梁点検分科会 第1回研究会 議事録

平成17年3月16日 15:00～ 於:茨城県建設技術研修センター 第1研修室
分科会班員 出席者:51名

1. 事務局の澤島補佐から分科会第1回研究会の開会の挨拶があった。
2. 研究会開催の主旨及び活動予定内容について、建設コンサルタントグループの牧野氏から報告があった。
主旨要約:高度成長期に大量に構築された道路構造物(橋梁)は、将来更新時期を迎えることになることから、限られた財政・限られた人数という制約の中で、構造物の有効利用・維持管理手法について産・官・学の立場から意見交換を行い、その成果等については、県土木部に提案を行って行きたい。
活動予定:
 - ・既存資料等による県内橋梁の整理及び実態把握を行う。
 - ・鋼、コンクリート橋梁及び下部工、基礎工における点検・管理・補修施工に関する検討・提案を行う。
 - ・財政上、マンパワー上の課題整理と解決手法の検討を行う。
 - ・橋梁の管理、運営上の課題とその改善策等について検討を行う。
 - ・補修、補強工法の調査と実施箇所の現場見学会を実施する。
3. 「茨城県の橋梁の現状と課題」について、土木部道路維持課の松本技佐兼課長補佐(技術総括)から報告があった。
要旨:
 - ・県が管理する橋梁数の内訳と過去の架設年次別の内訳、年々減少傾向にある橋梁補修費の推移、H4に行った橋梁点検の結果等について。
 - ・適正な橋梁管理水準を維持して行くうえでの橋梁の異常や損傷の早期発見体制の確立と必要な予算の確保について。
 - ・橋梁点検の早期実施、点検データベースの作成、早期対策によるコスト縮減について。
 - ・今後の課題について
4. 「橋梁点検分科会の発足に当たって」と題して、茨城大学工学部都市システム工学科の横山教授から講演があった。
要旨:
 - ・バックグラウンド「茨城県の橋梁の現況」(ストック数、財政の手当、マンパワーなどの過去の推移と現状)
 - ・より効率的な維持管理を目指して(異常を予見して最小の費用で対策する)
 - ・分科会としての取り組み(点検技術の確立、点検マニュアルのまとめ)
 - ・具体的な方向(維持体制、財政・マンパワーの課題対応、データベース作成)
 - ・将来の方向(マネジメントシステムの確立、データ蓄積、情報公開と説明責任)
 - ・分科会の目標(茨城県の実態に即し、今後の構造物の維持管理手法の検討、提案)
5. ワーキンググループの取り組み方について、道路公社豊島部長から説明があった。
グループ編成については、参加各グループからコアメンバーを選出し、課題等について整理を行って行く。
 - ・審査グループ(11名)
 - ・鋼橋調査、技術検討グループ(7名)
 - ・コンクリート橋調査、技術検討グループ(7名)
 - ・下部工調査、技術検討グループ(10名)
 - ・事務局(4名)
6. 質疑:分科会の進め方等について質疑が行われた。
7. 最後に事務局の澤島補佐より挨拶があった。